

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「フレイル」

テーマ:「死神なのに、人間に恋をする美少女」

キャラクター

35

ストーリー

40

テーマ(設定)

55

文章力

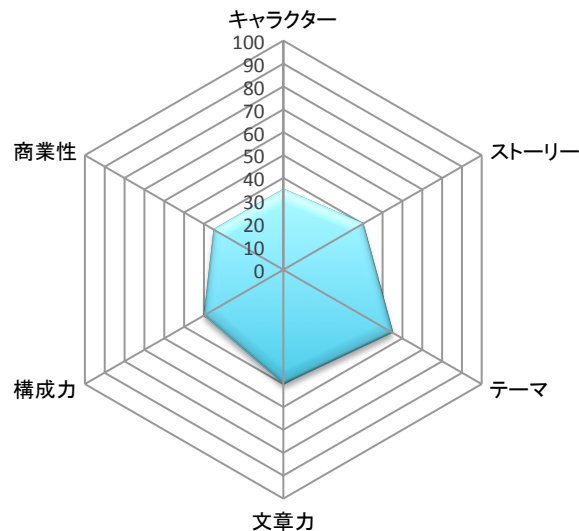
50

構成力

40

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・「だって……キミに一目惚れ……しちゃったんだもん」について、ヒロインから一目惚れをされて嬉しくない読者はいない。ただあまりに唐突過ぎる感じが否めないため、ヒロインが主人公のどこを気に入ってしまったのかを会話を通じて理解できるような構成をとればより分かり易くなったと思われる。

・ジュブナイルものかシリアスものか、作品がとても中途半端な位置づけにあるためどちらかに傾けてほしい。序盤だけでは恋をしてしまった死神のどたばたコメディ的な展開が来ると思ってしまうため、そう予想してからの人間の死ネタは読んでいて感動するというよりは少しげんなりした印象を覚えざるを得ない。

・文字数制限の上限までまだ余裕があるため、その分で死神と主人公の出会いをより詳しく描くとストーリーの面白さ(深さ?)が増し、オチをより感動的に味わうことができたのではと感じる。序盤での死神との出会いが唐突過ぎるあまり、なんでそんな唐突に出会った死神と簡単にうちとけあっているのだろうと多少の不自然さが残った。

合計加点ポイント: 0

総得点: 255 / 600

B方式総合得点: 10838 点